

終了報告

東海支部見学会

2006年10月6日(金)、東海支部見学会は多数の方々にご参加頂き、盛況のうちに終了しました。ご参加いただきました皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。また今回、施設見学に際し、岐阜県セラミックス研究所、神明リフラックス(株)、(株)幸兵衛窯には色々とお世話になりました。深く感謝申し上げます。

来年度も見学会を開催いたしますので、多数の方々のご参加をお待ち申し上げます。

記

主 催：(社)日本セラミックス協会 東海支部

共 催：多治見市

日 時：平成18年10月6日(金) 13:00 ~ 17:30

見学先：神明リフラックス(株)

【解説】神明リフラックス(株)概要説明

(解説者：神明リフラックス(株)代表取締役 宮地 伸明 様)

神明リフラックス(株)は、昭和44年に耐火物原料粉碎業として設立され、現在、原料の粉碎・混合及びバーミキュライト焼成等を行っている。粉碎の処理工程、乾燥、破碎、混合等の流れについて、また地域環境、作業環境への配慮について、わかりやすく説明していただいた。

【見学会】神明リフラックス(株)工場見学

粉碎・混合、焼成等の見学を3班に分かれて行った。「埃は製品である」という会長のお言葉通り、工場内は粉を扱う職場でありながら掃除が行き届いており、常にリサイクル品を増やしていこうというプラス思考が伝わってきた。



(写真：神明リフラックス見学後の質疑の様子)

見学先：岐阜県セラミックス研究所

【解説】岐阜県セラミックス研究所概要説明

(解説者：岐阜県セラミックス研究所 所長 平井敏夫 様)

当研究所はJR多治見駅の南東約2kmの小高い丘陵地にあり、岐阜県産業課陶磁器試験分室として明治44年(1911年)に設置され100年近く地元の陶磁器産業を技術的にサポートしてきた。最近では新素材・新技術の研究に積極的に取り組み、又環境に配慮した循環食器の展開へ力を入れている。

研究発表はインターネットにも公開されている。

【見学会】岐阜県セラミックス研究所

残光性上絵具や加飾用インクジェット印刷、大型鋳込み成形技術等の研究について丁寧にご説明頂いた。中でも3次元解析のコンピュータを使い、人間が描く文字や絵などをそのまま再現する「筆絵付けロボット」や、短時間で焼成可能な「マイクロ波焼成」については非常に興味をもてるものであった。「マイクロ波焼成」では直径50cm*厚み30mmの大きなアルミナ板が焼成可能で、表面と内部の均一焼成をするには、マイクロ波吸収が同じ材質で被焼成物を囲う事が重要だとの説明があった。



(写真：マイクロ波焼成炉説明)



(写真：大型鋳込み成形説明)

見学先：(株)幸兵衛窯

【見学会】(株)幸兵衛窯

1804年初代加藤幸兵衛により開窯された幸兵衛窯本館にて、歴代の作品や名陶ラスタースターの復元品などを、また古陶磁器資料館では人間国宝、加藤卓男氏のペルシア陶器研究の資料や、中国、朝鮮の古陶を見学した。併設されている市之倉さかづき

美術館では、幕末・明治から昭和にかけての精緻な盃や地元に縁のある人間国宝・巨匠8名による作品を鑑賞し、美濃地方の伝統文化について学んだ。



(写真：古陶磁資料館説明)

【懇親会】

見学会終了後、懇親会を開催した。神明リフラックス 宮地様、土本様、岐阜県セラミックス研究所 平井様も交え、日頃の研究に関わる苦労話等の貴重な情報を得る事ができ、更には会員相互の親睦を深め、英気を養うことができた。

以上